

線材二次製品(鉄線・針金・釘)

生産は15年初めに上向き気配がみられたが、その後再び低迷し底をはうような動きが続いている。一部自動車関連向けなどは比較的堅調である。昨春、川上にあたる鉄鋼メーカーで材料価格の値上げがあり、川下での動きが芳しくない環境ながらも、値戻しが進み、二次製品各社は収益面では一息ついている。

今後については、春にも更なる材料価格の上昇が見込まれており、各社とも経営努力を続けつつその影響を注視している。

業界の概要 鉄鋼の線材(ロッド)を伸線・加工した線材製品には、鉄線、針金、釘、ねじ、ボルト、金網、ワイヤーロープ、パチンコ玉など数多くの製品があり、建築、土木、自動車、家電などあらゆる産業において、また日常生活の中で広範囲に利用されている。これら線材製品のうち、鉄線、針金、釘を総称して一般に「線材二次製品」という。二次製品から作られるボルト・ナット等は三次製品ということになる。

線材二次製品は、普通線材を酸洗(錆落とし)の後、ダイスを通す冷間引抜き加工により伸線し(「普通鉄線」、焼鈍(やきなまし)したり(「なまし鉄線」、垂鉛めっき等の加工を行う(「針金」)などして製造される。用途についてみると、普通鉄線は建設分野でのコンクリート補強用のほか、各種機械部品や釘に、なまし鉄線は鉄筋や建設現場の足場等の結束用やビニール皮膜線用に、針金はフェンス、有刺鉄線や金網にそれぞれ用いられる。このほかに冷間圧造用炭素鋼材を原材料とする鉚螺用鉄線もあり、ボルト・ナット等に加工される。

生産形態については、商社、ユーザーからの受注生産がほとんどで、メーカーには(1)線材を伸線するメーカー、(2)伸線された鉄線を購入し針金、釘に加工するメーカー、(3)伸線から針金、釘の製造までを一貫して行うメーカーがある。不得意品目などでの仲間取引もあり、また伸線や焼鈍、直線加工といった工程ごとの下請企業も多数存在し、生産を支えている。

大阪は全国一の産地 大阪府における事業所数及び出荷額は、平成13年において普

通鋼鋼線(鉄線)で24事業所、354億35百万円(全国比29.3%、35.2%)、針金で6事業所、62億20百万円(同46.2%、28.0%)、鉄丸釘で10事業所、9億53百万円(同32.3%、21.7%)、鉄特殊釘で23事業所、90億05百万円(同46.0%、36.0%)となっており、いずれも全国で第1位のシェアを占めている(『工業統計表(品目編)』従業者4人以上分)。

府内には東大阪市の枚岡地区と高井田地区に古くから線材製品製造業者の集積がみられ、関連下請企業も含めこれらの企業群が有機的なつながりを持つことで、様々な種類の線材製品の供給を可能にしている。

関東では特定ユーザーを対象とした企業が多いのに対して、大阪企業は関西、関東双方の商社を主なユーザーとしているといった特徴があるとされる。

生産は底ばいの動き 全国の線材二次製品の生産量は平成15年の初め頃には上向く気配がみられた。しかし、これは材料不足に起因する仮需が発生したためで、その後は再び低迷し、現在に至るまで底をはうような動きが続いている。ただし、針金や特殊釘など品目によっては前年同月の水準を上回る月がみられるようになるなど、底打ちを期待させる動きもみられる。

大阪地区を対象としたヒアリング調査でも、扱い品目によってバラツキがあり、例えばボルトやナットに加工される自動車関連向け冷間圧造用炭素鋼線は比較的堅調であり、一方、建設用の普通鉄線や普通釘などでは低迷が続いている。

なお、近年の公共工事削減の影響は著しく、かつては土木・公共工事関連で年度末の盛り上がりが見られたものだが、ここ数年はそのようなこともなくなり、今年度も期待できそうにない。

増大する輸入製品 かつては隆盛をきわめた業界の輸出も、今では激減し、現在残っている輸出は国内需要の1割以下とわずかである。

輸入については、材料である線材の輸入が、後述する国内線材価格上昇の影響によるものか、単月で前年1年間を上回るほどの急激な勢いで増加している。二次製品では、一服感のあった鉄線で昨年再び製品輸入が増大し、針金や釘も引き続き流入し続けている。また、ボルト・ナットといった三次製品でも、増大する輸入製品との競合

がみられ、二次製品製造業者にも影響を与えている。身近な例では、焼肉店で使う金網などが、使い捨ての輸入品に転換しつつあるといった動きがみられる。これによって国内二次製品メーカーの出荷も減少することになる。

ある鋸螺用鉄線メーカーによると、台湾、中国などの三次製品メーカーの生産規模は標準的な国内メーカーの10倍程度も大きく、量産効果が働く。台湾資本の中国三次製品工場を見学に行った日本の線材製品メーカーの経営者が、そこでの製品の遜色のなさや低価格に、国内雇用の問題さえなければOEM調達を申し込もうかと思った、という話もある。

自動車メーカーなどのユーザーや商社は、既に在庫で持つような定番品はもちろん、これまでなら国内メーカーの主力商品であった規格外の量産品についても、安価な輸入品での調達を始めようとしている。もはや国内製品の市場は、特殊な仕様や急ぎの製品など、限られたものになりつつあるという。

収益面では一息つく 最近の業界での大きな動きとして、平成14年春、15年春と二度にわたって材料価格が引き上げられたことが挙げられる。背景としては、ユーザーのコスト削減志向によりこれまで収益が悪化してきた川上の鉄鋼メーカーが収益の確保を図ったものであるが、輸出を中心とした自動車産業の業績回復や、経済成長著しい中国における素材需要の高まりなども間接的に値上げ環境を後押しした。

線材二次製品業者は、トン当たり5,000円といった材料価格の数パーセントにも相当する上昇分を、なんとか製品価格に転嫁することで、収益面では一息ついた感がある。もっとも、川下の三次製品メーカーにとっては、自社製品の需要が低迷し、輸入品との競合が続く中、このような材料価格の上昇は受け入れ難く、非常に厳しい状況となっている。例えば三次製品の典型的な品目では、輸入品の運送費を含む国内着時点での価格が、国産品の材料費+梱包費+運賃にほぼ等しいといったコスト計算になってしまい、「加工賃ゼロでは競争にならない」という。二次製品メーカーからみても、三次製品メーカーは「まさに存亡の危機」「もはや立ち行かなくなるのでは」といった声が聞かれた。

実は、この春にも三度目の線材価格の上昇が見込まれており、二次製品各社ともこ

の影響を注視している。

様々な経営方策 このような中で、各企業では様々な経営努力を講じている。例えば、他社が手掛けられないような高付加価値製品への取組みなどがあげられる。

戦後、細物針金からスタートしたある企業では、溶融亜鉛めっき、電気亜鉛めっき、銅めっきと年代を追って新たな品目に挑戦し、他社にはない製品を供給し続けている。その結果、ユーザーも建設から日用雑貨、園芸、エレクトロニクスなど多岐にわたるようになった。自動車関連ではエアバッグ内部のフィルター用ワイヤーを手掛けており、火薬爆発時の耐熱・対粉塵に千分の一ミリ精度のメッシュ管が活用されている。国産エアバッグの生産は増加傾向にあり、同社の主力商品となっている。他にも所定の導電率を得るための特殊な銅めっき線など、付加価値の高い製品作りに努力している。昨年はISO9001の認証取得に取り組むなど積極的である。

同業他社ではあまり手掛けないパチンコ玉の製造を続けている企業もある。この企業では、釘から脱皮すべく、戦後早くからパチンコ玉の製造に取り組むとともに、住宅関連などの「接合金物」を委託生産し、自社はその製品を販売する商社へと転換を図るなどの経営上の特徴がみられた。近年は、パチンコ関連で釘、玉に加えてスロットマシンのメダルも供給するようになっている。

別のある鉄線メーカーの場合は、これまで亜鉛アルミ合金めっきの高付加価値製品の開発に取り組んできた。独自の技術で、極厚ながら曲げにも剥げないめっきを施す。近年、さらに強度と耐久性を高めた新製品をシリーズ化して、養殖用イケスや環境に配慮した護岸工事など新たな需要開拓を目指している。商社のみならず金網業者やゼネコン、設計事務所まで、実際に製品が使われるところに近づいたマーケティングを大切に考え、現場の情報収集にも積極的である。

この他にも大阪には特徴ある得意分野を開拓した企業が多く、海底光ファイバーケーブルの保護線を手がける企業や、ホビー工作向けの自社ブランドの最終製品を開発し、PRと販路の開拓に取り組んでいる針金メーカーなど、枚挙にいとまがない。

一方で業界では、企業努力にも限界があり、近年の供給過剰状態は、企業数の淘汰をもたらすのではないかという厳しい見方もある。実際、近年大阪でも、二次製品業

者の自主廃業や民事再生法の申請などがみられている。

設備・雇用の動向 設備投資については、全体として低調で、新規のものはあまりみられなかった。これまでの設備を手直しし、他の製造工程もこなせるようにした、といった企業や、扱いの増えてきた品目をこなすために、古い設備を廃棄し、工場レイアウトの変更・再配置に取り組む企業などがみられた。

雇用については、定年退職者の不補充による自然減など、総じて消極的である。新卒採用は停止しているという企業が多い一方、パートタイム労働者が半数近くを占める企業や、中途採用で即戦力となる経験者を数人採用したという企業もみられた。

今後の見通し 今後についても、部分的に好調なところはあっても全体的な回復は見込めず、厳しい状況が続くとみられる。上述のように春には三度目の材料価格の上昇が見込まれていることから、各社ともその影響を注視している。

(井 田)

線材製品生産量の推移(全国)

年 月	鉄 線		針 金		普通釘		特殊釘	
	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)
平成12年	757,217	-1.1	179,519	-11.4	52,654	-8.5	85,371	5.4
13年	716,863	-5.3	154,125	-14.2	47,913	-9.0	80,246	-6.0
14年	672,774	-6.2	139,376	-9.6	38,237	-20.2	72,997	-9.0
平成14年10～12月	179,604	-0.3	32,579	-14.4	10,145	-16.4	18,640	-6.6
平成15年1～3月	163,247	-0.2	34,903	-16.2	8,849	-10.8	17,986	-2.4
4～6月	155,365	-7.8	30,721	-11.0	9,478	-2.7	17,273	-3.7
7～9月	153,207	-4.4	28,979	-10.8	8,370	-8.2	18,279	0.7
平成15年 10月	58,015	-4.3	10,901	6.2	3,231	-7.3	6,860	11.0

線材・線材製品輸入量の推移(全国)

年 月	普通鋼材		鉄 線		針金・めっき線		釘	
	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)
平成12年	53,037	198.2	1,651	89.8	34,028	1.2	22,298	34.2
13年	40,126	-24.3	4,443	169.1	27,695	-18.6	24,069	7.9
14年	12,250	-69.5	1,869	-57.9	35,244	27.3	26,350	9.5
平成14年10～12月	786	-89.9	594	-24.7	9,590	42.7	7,324	11.7
平成15年1～3月	2,714	-64.6	1,063	242.9	9,665	22.2	6,986	5.9
4～6月	64,869	3,491.9	1,437	227.3	9,246	-4.8	7,284	22.8
7～9月	24,155	1,112.0	1,565	197.5	9,145	13.8	7,320	12.6
平成15年 10月	4,932	609.6	543	193.5	3,695	24.1	2,946	11.4

資料：線材製品協会調べ。